

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成22年度 第4回枚方市環境審議会環境基本計画改定部会
開 催 日 時	平成22年10月15日(金) 19時00分から 21時00分まで
開 催 場 所	枚方市役所 特別会議室
出 席 者	部会長：三輪委員、副部会長：下野委員 稲森委員、今田委員、田中みさ子委員、野田委員、丸井委員
欠 席 者	田中隆夫委員、増田委員
案 件 名	1. 審議案件 (1) 部会報告案について 2. その他
提出された資料等の 名 称	資料1 枚方市環境基本計画の見直しに係る基本的な考え方について（部会報告素案） 資料2 施策の体系（案）のイメージ
決 定 事 項	計画の基本的な考え方に関する部会報告素案について審議した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 (事 務 局)	環境保全部 環境総務課

審 議 内 容

1 開 会

三輪部会長： 定刻になりましたので、平成22年度第4回環境基本計画改定部会を開催します。それでは事務局に本日の部会の出席状況をご報告下さい。

事務局： 本日の出席委員は、委員定数9名のうち、7名の委員の出席をいただいていますので、枚方市環境審議会規則第4条第2項に基づきまして、本部会が成立している事をご報告申し上げます。

2. 議 題

三輪部会長： 前回の部会では、基本計画のテーマや基本目標などについて重点的に審議いたしました。本日の部会では、6、7、8ページあたりを重点的に審議していきたいと考えております。前回の部会で、いろいろと意見がありましたので、もちろん前回審議していただいた部分についても見直しをすることも可能かと思えます。また、委員から事前に意見をいただいていますので、審議を進めながら、適時引用させてもらい検討を深めていきたいと考えていますがよろしいですか。それでは、お手元の資料につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局： 「部会報告素案」(資料1)、「施策の体系イメージ」(資料2)について説明。

三輪部会長： ありがとうございます。前回、基本施策に非常に細かい項目が入ったページが続いておりました。今回はなくなっているので、それについてご説明、補足をしていただけますか。

事務局： 前回までは、基本目標や基本施策などを検討していただくために、施策の方向を参考までに提示させていただいていましたが、審議会には「枚方市環境計画の見直しに係る基本的な考え方について」を諮問させていただいており、基本的な考え方という視点で委員のみなさまにはご指導いただきたいと考えておりますので、今回はそれを省かせていただきました。

三輪部会長： 前回の資料には、非常に細かく現基本計画の内容が示されていたので、話がいろいろと膨らんでしまったと思えますけど、この場では新たな基本計画はこうあって欲しいということを中心に審議していただきたいと思えます。ですから、一つひとつ施策レベルまでいろいろと考えて検討していくと、後5回くらいは部会を開催する必要がありますので、諮問の趣旨に沿って部会として報告をまとめていきたいと考えております。

本日は重点的に6、7、8ページあたりについて、ご意見を伺う予定ですが、はじめにその他のページの中でご意見等がありますでしょうか。

野田委員： 付属資料4について、例えば自然環境の保全というところの現状と課題について、内容をもう一度確認するのは、今でもよろしいでしょうか。

三輪部会長： そういうことも含めて、お願いいたします。

今田委員： 前回と今回と比べて基本目標や基本施策の順序が入れ替わっている部分があるのですが、事務局として施策の方向をまとめるときに、まとめやすいとか、ウエートが高いとかを考えてのことですか。

事務局： 地球環境のウエートや内容については、前回の部会で相当議論がありましたので、そうした議論も踏まえて修正させていただきました。

丸井委員： 地球環境や自然環境などの分野を明確に切り分けるのは不可能ですので、相互に関連性を持たせながら、環境の保全と創造にみんなが取り組んでいくことがどこかに書かれていれば、問題ないと思います。そういう基本目標を立てるにあたっての考え方をどこに置くのかをきちんと明記することをひとつのポイントとして入れていただけたら、今話されていたことは解決するのではないかなと思います。

三輪部会長： 今のご意見は、基本目標や基本施策の並び方や分類などは、人によっていろいろな考え方があり、明確に切り分けるのは難しいので、それなりに整理された体系であれば、それぞれが相互に連携していることを明記することが大事だということですね。

田中みさ子委員： 地球環境を一番上にしてもいいかなとは思いますが、ただ、施策の方向の中で省エネルギーと新エネルギーとヒートアイランドというのがありますが、ヒートアイランド対策をここに入れて良いのかなというような気がします。このあたりはもう少し大きな括りの中で、もっと全体にかかる様な方向で検討していただいたほうが良いかなと思います。

三輪部会長： 例えば具体的に表現すると、どういった感じになるのでしょうか。

田中みさ子委員： 全体としてどういう市民になって欲しいかとか、どういう市民になって欲しいためにどういう方向性で支援していくかというようなことをここに持ってきて、その中にライフスタイル等の内容を入れていくことが考えられます。環境の取り組みは、一人ひとりの取り組みが非常に大切になりますので。

丸井委員： 7ページですべての主体の参加と計画の推進の中で、主体の役割が書かれていますが、その視点が施策の体系から抜けていて、行政がやることだけが書かれています。なので、市民に省エネ行動への転換を図ってもらうには、どういった施策が出てくるのかわかりません。7ページには主体の役割が書かれていながら、こうした体系しか示されていないので、違和感があります。

今田委員： 7ページのすべての主体の参加と計画の推進をみると、市の役割というのは非常に大きいかなと思います。特に、(2)市民、事業者による自主的

積極的な行動の促進をみると、市が全体を引っ張る感じを受けます。この記載部分を（１）各主体の役割に入れてもいいのかなと思います。

田中みさ子委員：環境分野に限らないとのことですが、現在は市が主導で様々な取り組みを行っていますが、もっと市民に自覚を持ってもらった方がいいのではないかと思います。これからの10年という期間では、難しいかもしれませんが、徐々に市民に参加してもらって、将来的には市が主導していくのではなく、市民がいろいろなスタイルで環境を守っていくことを自覚してもらうのがいいと思います。そういったことから、もっと積極的に市民に参加してもらうことははっきりと打ち出した方がいいかなと思います。

三輪部会長：一人ひとりの意識が変わらないと環境は良くなるので、そういう考えをもっと明確に示していくのがいいのではないかなということですね。基本計画を策定するにあたっては、そういった内容をどこかに記載する方向で考えていただきたいと思います。

今田委員：田中委員の意見はもっともだと思います。環境意識向上のための環境情報の提供や環境教育などはどこにでも出てくるので、まだまだそういった環境意識を育てていく時期だと思います。

丸井委員：現基本計画の中で、三者協働で力を合わせてやっていかなければならないというのが記載されています。現在、十分とは言えませんが、多くの市民が少しでも枚方市を良くしようと、自分たちの関心のある分野で動き出しています。連携・協力できる体制や関係を構築していくことも大切ですが、現にあるものをどう活かしていくのかも重要なことだと思います。8ページの（３）計画の推進に「連携・協力できる体制や関係を構築することが望まれる」と書かれているので、10年前に作ったものをまたゼロから構築していくように感じてしまいます。

今田委員：施策の方向のどこかに市民力の向上があってもいいのではないのでしょうか。

三輪部会長：施策の体系については、政策の方向が若干違っても、どこの市でも同じような書き方になっているのは事実です。何らかの方法で、環境市民力の向上を前面に出すことも必要なのかもしれません。基本目標の中に環境市民力の向上が一項目入っていると、予算配分も変わってくる可能性があります。

野田委員：目指すべき方向は目に見えてわかった方がいいのですが、それを進めていくための政策などソフト的なものはなかなか見えにくくなっています。ハード的なものとソフト的なものが、政策の方向の中で整理して示すことができればよいと思います。または、ハード的なものがうまく使われて目標像に繋がっていくということでもいいと思います。ただ、今の表現では広がりを感じられにくいので、例えば10年間のロードマップの中で繋がっていくように見えるとすっきりするのかなと思います。

三輪部会長： 施策の体系の中に啓発や環境教育は現れていませんが、市民活動の活性化などの施策は、市が実施する具体的な内容を実施計画として作成しています。方向性はそのままにしておいて田中委員や野田委員の思いを込めていく書き方でいくのではいかがでしょうか。

丸井委員： 基本計画そのものは行政の管轄の計画なのではないでしょうか。基本計画とはそういうものだと思っています。行政の年度ごとに決められた範囲内で落とし込める体系でないといけないので、どこの行政も同じような体系の基本計画になっていると思います。基本計画は、みんなで環境を良くしていこうという計画なので、だからこそ「すべての主体の役割」という項目があるのだと思います。

稲森委員： 環境基本計画は、行政が持つ計画であって、同じ並びで市民が入るといったものはありません。基本計画には、事業者や市民の協力が必要と書いていますが、強い誘導がないとやっていけないと思います。当たり障りのない文章では、説得力がないと思います。計画には環境保全の取り組みをするとあっても、啓発されるのは市民です。なので、7ページ、8ページは、もっと強く書いていくべきだと思います。

枚方市は、市民の活動も活発で、特に、ひらかた環境ネットワーク会議は、市民を牽引していく活動をしておられると思いますが、実際のところは、現実、そこまで環境に関心が高い人は少なすぎると思います。そのためにはどうするのか、ということも7ページ、8ページに行政の強い発言が欲しいのです。環境問題は自分たちの問題だから、環境を保全する活動をするのが義務ですと書いてほしいです。

今田委員： 市民と市民団体が分けて書かれています。市民には参加しなさいと書いてあるが、現実的には市民の役割がよくわかりません。市民団体の書き方は問題ないと思います。

三輪部会長： 共通の意見として、基本計画というものは、市が実施していく施策を整理したものであり、市民に対する働きかけも重要な市の施策の一つだということですね。そして、市民としても環境にもっと関心を持たないといけないということですね。

今田委員： 6ページの重点プロジェクトに市民環境力を高めるようなことを入れていけばいいのではないのでしょうか。

丸井委員： 市民や事業者の行動を促進するためには、何をすればいいのかを考えたら、重点プロジェクトの中に環境教育のことを書き込んでいけばいいのではないのでしょうか。力を入れて書いてほしいです。

三輪部会長： 7、8ページについては、もう少し強調する方向でよろしいですね。重点プロジェクトについては、どういうものを設定するべきかという基準については書いていますが、具体的に何をすべきかとは書いていないので、例えば、環境市民力の向上であるとか市民意識の向上を図るといったもの盛

り込んでいくことが考えられるのではないのでしょうか。

今田委員： 重点プロジェクトのところで戦略的施策と書いてありますが、枚方市の戦略なので、スケールが小さいように思いますが。

野田委員： まず市民に対して、10年間のロードマップを示すなど流れを見せないとわかりにくいと思います。例えば、補助金を通じて市民団体を育成し、そのための活動場所とコーディネーターを提供していく。そして、市民団体の活動を通じて市民の間で取り組みが広がっていくといったロードマップが必要です。そういった視点で重点プロジェクトを考えないと、実現性が感じられないです。

今田委員： 重点プロジェクトというのは、一般的に幾つか施策があって、これが一位なので重点とするというものですが、ここでは、ひとつもありません。

田中みさ子： 重点プロジェクトには、市民の環境力を上げるようなことを盛り込んでいく必要があると思います。市民が自分の近くに優れた環境があることを全く理解していなければ、いくら大事であるといっても守られないだろうと思います。市民にどう取り組んでもらうかが重要であり、放置していると守りたい環境も守れないし、後になって無くなってから結局市民が後悔してしまいます。

三輪部会長： 重点プロジェクトの視点の4つの項目は、選定基準ということですよ。五つ目として環境市民力を向上させるための施策とか、文言を追加してはどうでしょうか。

稲森委員： 重点プロジェクト（戦略的施策）という表題なので、重点的に実施していく施策がいくつか並ぶという読み方が自然な感じがします。なので、現在の内容ですと、重点プロジェクトを進める以前の表題がここについていたらもう少しわかりやすいのではないのでしょうか。

三輪部会長： 今の書き方では「重点プロジェクトに必要な視点」が正しいタイトルになりそうですね。ただ、部会として具体的な重点プロジェクトを提案していくことも可能かと思います。

野田委員： 実際に環境を知るために学習だけではなかなか身につけません。体感するなど接していかないと難しいと思います。情報だけを提供するのではなく、例えば、身近に接していける象徴的な場所の保全や、水質の向上が同時に進む様な形で行くのが重要だと思います。その際、何も無いところから始めるのは難しいので、今活動しているとか、可能性があるところから始めるのがいいと思います。

三輪部会長： 前回の部会の資料では、7ページあたりに網掛けの部分がありましたが、その部分は基本計画を策定する際、どのように扱われるのですか。

事務局： 環境基本計画は行政計画なので、分野に共通した項目として、環境教育を推進していくという記述は必要だと思います。基本計画は市で策定し、これに基づき、10年間の環境施策を進めていきます。

今田委員： 7、8ページのすべての主体の参加と計画の推進に市民などへの働きかけが書き込まれるとのことですが、市民からするとわかりにくく感じるので、モデルのようなものを重点プロジェクトの中に具体的に入れていけばいいと思います。

事務局： 審議会の基本的な考え方を市が受け取りまして、合意を得て細かい施策を決定していきます。この審議会で細かいところまで議論しようとするれば、かなり多くの部会を開催し、審議を重ねないと難しいと思います。

丸井会員： 重点プロジェクトの考え方として、環境教育を追加して欲しいです。計画の推進と評価についてもう少し踏み込んだ表記が望ましいです。

三輪部会長： 環境教育あるいは環境市民力の向上等は非常に重要であるということがどこかにイメージされるように、それが7、8ページに入るのか、それとも付属資料の意見の中に入るのかわかりませんが、どこかに皆さんの思いが入ってくると思います。例えば、10年後の枚方の環境を考えたときに環境教育、市民力向上に全力を尽くすべきであるとか、そういう思いがどこかに記載されることが重要であると感じると思います。

下野副部会長： 環境市民力や環境教育は、きっちりと押さえておくべき大事なことだと思います。それがしっかりとしていなければ、いくら基本計画があっても、なかなか環境の取り組みが前に進んでいかないと思います。これまでの10年間のノウハウとかを積極的に活用して次の10年で、更にアップするということを考えていかなければならないと思います。

三輪部会長： 「ロードマップ」と言う言葉を野田委員が何回か使っていましたが、環境指標等の設定を検討し、進捗状況を定量的に把握していくことが望まれるということが書かれていますので、そこに「ロードマップ」という言葉を入れてもいいかもしれません。

野田委員： 「ロードマップ」は重点プロジェクトに必要なようになってくると思います。基本計画が10年間であるなら、10年間のロードマップがいると思います。重点プロジェクトの視点に、「市民が自ら学んで考えて実践する力を身につけて欲しい」というような簡潔に文を入れていただきたいと思います。また、環境学習や教育とフィールドが結びつくということや、地域全体で発生していくような視点も必要だと思います。

三輪部会長： もし、書き込むなら重点プロジェクトの四角囲みのなかに入るのでしょうか。あるいは、7ページの市民の役割あたりに、市民が自ら学んで考えて実践するという文章が入ってくることもあると思います。要は全市的にどこでも環境活動が行われている枚方市にしていきたいということでしょうか。

野田委員： 特別な意識がなくても関わるができる環境は欲しいと思います。すぐくがんばっているという部分もあるべきですし、すこしでも気軽に関わるということが市の政策としては大事なことだと思います。

三輪部会長： 基本政策は相互に連携していて、総合的に考えなければいけないところが大事であり、各施策をばらばらにするのではなく、相互に連携を考えながら進めていくと言う視点を持って欲しいと言う一文を入れてもいいと思います。

丸井委員： どんな枚方にするのかテーマを言葉として盛り込み、枚方市がどのような思いでどういう風なまちを目指しているのかが伝わってくるようなものを是非入れて欲しいです。

三輪部会長： 環境像を明確にして欲しいと言うことですね。

丸井委員： 環境像と共にそれぞれの基本目標が、どう関連しているのかを含めて記載して欲しいと思います。

三輪部会長： そろそろ時間も少ないので、まとまった結論はないですが、事務局が今までの話をうまく表現できるように工夫してもらいましょう。これだけは伝えておきたいというがあればどうぞ。

野田委員： 付属資料の14ページの自然環境の保全のところですが、外来種の問題を追加し、「有機的なつながり」といった表現をもう少しわかりやすく、例えば「生物が行き交うことのできる」といった表現に変えていただけないでしょうか。

三輪部会長： 事前に提出された委員の意見にもありますように、基本計画のテーマを何らかの形で部会報告に書き込んでいくことにします。また、環境を守るために工場・事業所が追い出されてしまうことを懸念事項として、付属資料の意見に記載すべきだと思います。そのほか、重点プロジェクトは基本計画の全体的な共通機能に配慮した書き方で盛り込んでいく方向で調整していきたいと思います。その他の案件ですが、事務局から何かありますか。

事務局： 次回の部会について連絡

3 閉 会

三輪部会長： ありがとうございます。時間が参りましたので、本日はこれで閉会します。それでは本日はどうもありがとうございました。